

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	進学文系	3	体育科教員
教科書	現代高等保健体育				
副教材					
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で学んだ技能を実技テストにて評価</li> </ul>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている</li> </ul>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。</li> </ul>				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※1学期は新体力テストが加わる</li> <li>※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価</li> </ul>				
	<p>観点② 観察及びレポートにて評価をする</p> <p>体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける</p>				
	<p>観点③ 観察及びレポートにて評価をする</p> <p>体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。</p>				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリエンテーション(新学期・実技指導・内)</li> <li>○新体力テスト</li> </ul> <p>【グラウンド種目】ラグビーフットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作の習得～応用、ゲーム</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	5		<p>【体育館種目】バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作の習得～応用、ゲーム</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	6		<p>【ダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容説明、基礎動作・振り付け指導</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul> <p>【柔道】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技指導、内容説明、受身・寝技</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
2	7	現代高等保健体育	<p>【柔道】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技指導、内容説明、受身・寝技</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	9		<p>【グラウンド種目】サッカー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作の習得～応用、ゲーム</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	10		<p>【体育館種目】バスケットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作の習得～応用、ゲーム</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul> <p>【ダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作ダンス、振り付け指導</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
3	11	現代高等保健体育	<p>【柔道】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技指導、立技</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	12		<p>【ダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
3	1	現代高等保健体育	<p>【グラウンド・体育館・柔道】持久走</p>
	2		<p>【ダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導</li> <li>※実技テストも行う。</li> </ul>
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	進学文系	1	松岡 横山 佐藤 村山 城戸
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康
	5		
	6		
2	7	現代高等保健体育	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動
	9		
	10		
3	11	現代高等保健体育	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	12		
	1		
3	2	現代高等保健体育	
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学Ⅱ	進学文系	4	屋名池・駒崎・与那嶺 和久井・平田・黒滝
教科書	数研出版 最新数学Ⅱ				
副教材	数研出版 3ROUND 数学Ⅱ				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	各学期、100点満点で表記する。				
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
	3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
図書資料の活用	ねらい) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
	注意点) ノート・副教材(3ROUND)は毎時間準備してください。数学は毎日少しずつでも問題を解いてゆかねばなりません。課題または小テスト等については担当者の指示に従い、日々の復習に努めてください。				
以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 聖女の救済・東野圭吾					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・副教材	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明
	5		第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式
	6		
	7		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
2	9	教科書・副教材	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理
	10		第5章 指数関数と対数関数
	11		
	12		第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 第2節 積分法
	1	教科書・副教材	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法
	2		第2節 積分法

用	フェルマーの最終定理・サイモンシン
---	-------------------

3	3	
---	---	--

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭科	家庭基礎	進学文系	2	矢部・青柳
教科書	大修館書店「Creative Living『家庭基礎』で生活をつくろう」				
副教材	教育図書「家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ」				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていること。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけていること。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組む態度を身につけていること。				
考査・ 評価 方法	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 観点①②共に40点分（内各10点は実技点）、観点③20点の100点満点のテストを実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 3学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	家庭科の授業では、教科書や資料を読んで「知識・技能」を得るだけでなく、その「知識技能」が実際に生活でいかせるよう、実習や実験によって体験したり、他者との話し合いによって考えを共有し合い、自分で問題を見つけ調べたりすることで、解決していく力をつけることをねらいとする。				
図書資 料の活 用	郷土料理レポート作成、ロールプレイングで悪質商法をシミュレーションする際に図書室を活用予定				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		<生活のマネジメント> 1 生涯，発達し続ける 2 青年期の課題と自立 3 ひとり暮らし 4 家族について 5 子供の世界を知る 親になること	生涯発達の考えかたに立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解する。 自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 住宅情報誌を利用し初期費用の算出やアルバイトについて考える。 家族と世帯について理解し，現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。 子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。 おやつ実習および絵本作り
2		<食生活のマネジメント> 1 体と心を満たす食事 2 調理のワザを身につける 3 郷土食について 4 人生100年時代の 高齢期	食事の持つ意味を知る。 現在の食生活の現状を理解し，どのようにすれば健康的な食生活が送れるのか考える。 調理を科学的に理解する態度を養う。 沖縄修学旅行にむけての事前学習 調理実習および野菜の切り方テスト 人間の発達の完成期とともに現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。
3		<消費者教育のマネジメント> 1 18歳で変わる消費生活 2 進むキャッシュレス化	消費にかかわる契約について理解する。 契約を交わす際の注意点，発生する法的責任，契約に関するトラブルについて知る。 キャッシュレス化にともない，みえにくいお金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	世界史探究	進学文系	4	長尾
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	古代から近世までの世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期
1
2
3

月	教材	内容
中間 期末 考査	4	1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明
	5 第1章 文明の成立と古代文明の特質	4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明
	6 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成
7 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	
中間 期末 考査	9 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展
	10 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成
	11 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向
11 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	
学年 末考査	1 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国
	2 第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	論理国語	進学文系	2	二瓶、堂所、根本、宮城
教科書	数研出版「論理国語」				
副教材	『708論理国語準拠ワーク』(数研出版),『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店),『評論速読トレーニング1500』(数研出版)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること等、語彙力の確認。</li> <li>文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</li> <li>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</li> </ul>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</li> </ul>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組み、ノートの内容を工夫する。</li> <li>グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。</li> <li>ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。</li> </ul>				
テスト・評価の内訳	観点① (50点)	漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)			
	観点② (50点)	演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)			
	観点③ (20点)	①予習②感想・まとめ③課題(小テスト)④授業姿勢(各5点)			
授業のねらい・進め方・学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。</li> <li>教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。</li> <li>適宜漢字の小テストを行う。</li> <li>ペアワークやグループワークを積極的に行う。</li> </ul>				
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。</li> </ul>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1 「弱いつながら」	◎逆説的な表現が特徴の文章を読み、特徴をとらえ要旨を理解する。  ※単元の合間に速読トレーニングを行う
	5	2 「手の変幻」  中間考査	
	6	3 「胆力について」	
2	7	期末考査	◎近代という概念、また言語論について理解する。  ※単元の合間に速読トレーニングを行う
	9	4 「『内的成長』社会へ」	
	10	5 「国境を越える言葉」	
		6 「未来世代への責任」 中間考査	
	11	7 「日本語は非論理的か」	
12	期末考査		
3	1	8 「白紙」	◎情報と社会についての文章の論旨をとらえ理解する。  ※単元の合間に速読トレーニングを行う
		9 「疑似群衆の時代」	
	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	文学国語	進学文系	2	根本・平山
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、小論速読トレーニング（数研出版）、げんたん（いっずな書店）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。</p> <p>同値・言い換えや逆接などの文の構造を正しく理解できること。</p> <p>作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。</p> <p>登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ノートの内容に工夫があり、ワーク等の提出物をしっかりと管理し、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。</p>				
	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
考査・評価方法	<p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p> <p>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p> <p>観点③: ノート提出 (5点)、ワーク等提出物 (5点) 授業姿勢 (ペアワーク等の姿勢も含む) (5点)、読書活動 (5点)</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。</li> <li>・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。</li> <li>・ペアワークやグループワークを積極的に行う。</li> <li>・授業冒頭の5分は読書を行う。</li> </ul>				
図書資料の活用	適宜授業内で紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1 『山月記』 中島敦	代表的な作品を読み、小説とはどのようなものかを知る。
	5	※小説速読トレーニングは適宜行う。 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	6	2 『鍋セット』 角田光代	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
2	7	※小説速読トレーニングは適宜行う。 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	9	3 『ナイン』 井上ひさし	昭和後期の小説を読み、内容解釈・文体の考察を行う。
	10	※小説速読トレーニングは適宜行う。 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	11	4 『山椒魚』 井伏鱒二	昭和初期の小説を読み、内容を解釈し、作品を基に考えを深める。
	12	※小説速読トレーニングは適宜行う。 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
3	1	5 『こころ』 夏目漱石	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	2	※小説速読トレーニングは適宜行う。	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	古典探究	進学文系	2	古賀・織田・内野
教科書	『古典探究』数研出版 2年次では主に「古文編・漢文編I」を扱う				
副教材	・教科書準拠学習ノート ・古典の手引きおよび学習ノート 昨年に引き続きとして ・漢文入門 ・古文単語330				
評価基準	観点① 知識・技能 古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する 作品がその後の文学に与えた影響を考える				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業ノートでは、予習・復習を表現し、工夫する。ワークは直しをしっかりと行う。				
	小テストでは高得点を目指し、授業内では積極的に話し合い発言する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識				
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解				
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題(小テスト) ④授業姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	1年次で学習した「言語文化」は、古文、漢文、近代現代小説から成り立っていた。「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。古文や漢文を学習することで当時の人の感性を理解することができる。また、当時の人と現代人との感性を比較することで、われわれ現代人が当たり前と考えている感性を見直すことができる。そのためには、文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。授業では音読、ペアワーク、問題演習などの活動を通して、古文や漢文の解釈に必要な知識や技法を身に付けていく。それに伴い、スケールテストにも対応できる学力を身に付けていく。				
図書資料の活用	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ノートの取り方・受け方ガイダンス 『十訓抄』大江山	・工夫の仕方、予習について説明 ・助動詞と助詞と敬語の理解
	5	(GWまでの課題:『古典の手引き』用言) 『古典の手引き』助詞 『漢文入門』使役・受身 ※小テスト:助詞	・当意即妙についての理解 ・用言の復習、随筆の理解 ・受け身と使役の復習
	6	【中間考查】 『大和物語』鳥飼の院 『漢文入門』否定①②	・敬語の理解 ・主語の取り方 ・否定の理解
	7	『古典の手引き』敬語 ※小テスト:敬語 【期末考查】	※古文単語:1~150(1年次復習)
2	9	休み明け 文法単語テスト 『更級日記』東路の道の果て 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』疑問反語① ※小テスト:古文助動詞	・源氏物語の影響について ・敬語の理解 ・古典常識の理解 ・疑問反語の理解
	10	【中間考查】 『源氏物語』光源氏誕生 『古典の手引き』助動詞 『漢文入門』比較比況 仮定① ※小テスト:助動詞 【期末考查】	・源氏物語の影響について ・比較比況と仮定の理解 ・敬語の理解 ※古文単語 181~280
3	3	休み明け 文法単語テスト 『大鏡』競べ弓 『漢文入門』限定詠嘆 否定③ 使役② 受身② 漢文思想 【学年末】	・敬語の理解 ・限定詠嘆の理解 ・諸子百家の理解 ※古文単語 281~330+151~180

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴公民	地理総合	進学文系	2	佐々木、野々村
教科書	『高校生の地理総合』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院）				
副教材	『高校生の地理総合ノート』（帝国書院）				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 基本的な知識を身に付け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に付けているか。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に付けていたらよいかを考えながら、授業を受けてください。				
図書資料の活用	授業中に図書資料を紹介する。 新聞を読み、レポートを提出する課題を課す。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	世界の地形と人々の生活	生活と地形のかかわり 河川・海岸の地形
	5月	現代世界の国家と領域	氷河・カルスト地形・乾燥地形 国家の領域と国境
	6月	中間考査 世界の気候と人々の生活	生活と気候のかかわり 雨温図・景観写真
	7月	世界の産業と人々の生活	各気候帯 生活を支える農業の発展 生活を支える工業の発展
		期末考査	
2	9月	地図から見る国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	10月	多様な生活文化と地理的環境 東アジア	経済発展による生活文化の変化
	11月	中間考査 ヨーロッパ 地球的課題と国際協力	伝統の継承と生活文化のかかわり 人口問題 食糧問題
	12月	期末考査	
3	1月	自然環境と防災	日本の自然環境 地震津波や火山活動による災害と防災
	2月		気象災害と防災
	3月	学年末考査	自然災害への備え

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴公民科	日本史探究		4	今井
教科書	『詳説日本史』(山川出版)				
副教材	『日本史重要語句Check List』(啓隆社)・『図説日本史通覧』(帝国書院)				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> 教科書・副教材・授業で出てくる用語の記述や短文の選択等				
	<b>観点②</b> 正誤判定問題・図や表、資料から読み取る問題・論述問題等				
	<b>観点③</b> ※粘り強い取り組みを行おうとする側面、自らの学習を調整しようとする側面 普段の授業への取り組み・提出物・長期休みの課題等				
授業のねらい・進め方・注意点	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	・授業に関連する図書室資料を紹介する。 (例)小和田哲男『知識ゼロからのCGで読む戦国時代』 幻冬舎など ・調べ学習・発表、レポート課題で、書籍や新聞を活用する。				

授業の計画

※実際の進度は前後する可能性がある。

学期	月	教材	内容	
1	4	教科書	第1章 日本文化のあけぼの	
	中間考査	5	都道府県名	第2章 古墳とヤマト政権
		5		第3章 律令国家の形成
		6		第4章 貴族政治の展開
	期末考査	7	都道府県/旧国名	
	2	9	教科書	第4章 貴族政治の展開 地方政治の展開と武士～
10			第5章 院政と武士の躍進	
中間考査			旧国名	第6章 武家政権の成立
		10		第6章 武家政権の成立 モンゴル襲来と幕府
		11		第7章 武家社会の成長
期末考査			旧国名	
3	1	教科書	第7章 武家社会の成長 戦国大名の成長～	
	2		第8章 近世の幕開け	
	3		第9章 幕藩体制の成立と展開	
3	学年末考査	旧国名		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	進学文系	2	石田・筒井・八代
教科書	実教出版 化学基礎academia				
副教材	アクセスノート化学基礎				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解している。科学的な探究に必要な観察、実験などの技能を身に付けている。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。</li> <li>知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。</li> <li>毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。</li> </ul> <p>※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。</p>				
図書資料の活用	<p>理科学的な思考力を強化したい人は、以下の文献を参考にしてください。</p> <p>「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス 戸田山和久</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	2章1・2節 復習	それぞれの化学結合の特徴と、その化学結合からなる物質とその性質を理解する。  原子量・分子量・式量など、物質量の基本的事項を理解する。
	5	2章3節 1金属結合	
		2章4節 1化学結合と物質	
		3章1節 1原子量と分子量・式量	
2	6	3章1節 2物質量	物質量の基本事項、物質量と溶液の濃度の関係を理解する。  代表的な物質の化学変化を化学反応式で表現できるようにする。
	7	3章1節 3溶液の濃度	
		3章1節 4化学反応式	
3	9	3章1節 4化学反応式	化学反応式と量的関係を理解する。  酸と塩基について、日常生活と関連付け、酸と塩基の性質などの基本事項を理解する。  中和反応について理解し、日常生活での酸・塩基反応を考察する。  酸化と還元の定義を理解する。また、酸化還元反応が電子の授受であることを理解する。
	10	3章2節 1酸と塩基 2水素イオン濃度とpH	
	11	3章2節 3中和反応と塩の生成	
	12	4中和滴定	
		3章3節 1酸化と還元	
3	1	3章3節 2酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤の反応や、酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかわり、実用電池について理解する。
	2	3酸化還元反応の起こりやすさ	
	3	4身の回りの酸化還元反応	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	CE II	進学クラス	4	石井、太田、草地、濱井、藤本
教科書	FLEX English communicationII				
副教材	FLEX English communicationII workbook, 英単語Target1400, レンピー				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている</li> </ul>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①で習得したものをベースに、応用問題が解けている</li> </ul>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内のオーラル活動、レンピー、音読テスト、ネイティブ教員による活動に取り組んでいる</li> </ul>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内の活動を通して、英語の4技能 (Listening, Reading, Writing, Speaking) を総合的に育成する。具体的には①語彙強化→②リスニングによる内容把握→③チャンクを意識した読解→④精読→⑤音読(→⑥ディクテーション)</li> <li>各レッスン、音読テストを行う。</li> <li>基本的にiPad / schoolTaktを使用して授業を行う。</li> </ul>				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEX English communicationII	Lesson1
	5		Lesson2
	6		Lesson3
	7		Lesson4
			※週に1回、ネイティブ教員によるアクティビティを実施
2	9		Lesson5
	10		Lesson6
	11		Lesson7
	12		Lesson8
3	1		Lesson9
	2		Lesson10
	3		



2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	論理・表現II		3	井原・伊藤・鳥海
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材	英文法入門10題ドリル (駿台文庫) わからないをわかるにかえる英検準2級 (文理)				
評価基準	観点① 知識・技能 *教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 *①で習得したものをベースに、英検レベルの英文が書けている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 *授業内のアウトプット活動に参加できている *授業で扱えなかった範囲の問題等を、自分で取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ・空所補充 ・部分和訳・英訳 ・会話組み立て				
	観点② ・教科書ベースの総合問題 ・パラグラフライティング				
	観点③ ・小テストの実施状況				
授業のねらい・進め方・注意点	小テストで各講の復習をすることで、文法や表現の知識の定着を図る。 整序問題を通して文構造を理解し、英検ライティングに対応できる表現力を身につける。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	第1～6講	第1文型(SV) SVO to (V)原形
	5		第2文型(SVC) 第3文型(SVO) 第4文型(SVOO) 第5文型(SVOC)
		中間考査	
	6	第7・8、12～14講	SVO(V)ing SVO原形 不定詞 (名詞的用法) 不定詞 (形容詞的用法) 不定詞 (副詞的用法)
	7	期末考査	
2	9	第16～21講	動名詞 分詞の形容詞的用法 分詞構文①② 名詞節①②
	10	中間考査	
	11	第23～29講	関係詞節①②③④⑤ 副詞節 比較①
	12	期末考査	
3	1	第30～36講	比較②③ 時制 完了形 助動詞 仮定法 強調・否定
	2		
	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術	音楽II	進学文系	1	溝口 佳洋
教科書	MOUSA2 (教育芸術社)				
副教材	なし				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 【知識】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 【技能】 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。(歌唱) ・他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。(器楽) ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けている。(創作)				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感受しながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて独自の表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聞いたりしている。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> ・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
評価	(3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> ・実技テスト (25点) ・作品提出 (25点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	<b>観点②</b> ・振り返りシート (10点) ・鑑賞シート (10点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	<b>観点③</b> ・授業態度や他者との協働 (15点) ・自己評価シート等 (15点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
授業のねらい・進め方・注意点	・集団で活動する内容もあるため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。 ・作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。 ・文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。				
図書資料の活用	学期ごとにしるしレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	歌唱 「校歌」「生徒歌」
	5・6	iPadアプリ	Garageband作曲  ・入力練習・聴音 ・メロディー作り
	7	iPadアプリ	Garageband作品提出
2	9	iPadアプリ	文化際準備 Garageband作曲
	10	プリント	鑑賞 「ピアノの森」(予定) レポート提出
	11	プリント	ミュージックベル練習  ミュージックベル発表
3	1	プリント	合奏 パート決め 譜読み・練習
	2		合奏の完成、動画提出



2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術科	書道Ⅱ		1	佐藤敦子
教科書	書道Ⅱ・教育出版				
副教材					
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 主体的に書の幅広い活動に取り組み，主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創出して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 (3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	<b>観点① 作品評価40点</b> 鑑賞文 書道史学習 書風の比較 10点				
	<b>観点② レポート・理論テスト 10点</b> 観点の書き込み 工夫 及びグループ学習 10点				
	<b>観点③ 課題提出状況 10点</b> 授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点 自己評価5点				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間にする。</li> <li>・良い作品に対するこだわりを捨てない。</li> <li>・作品制作の雰囲気作りに心がける。</li> <li>・大東文化大学主催全国書道展への出品。</li> <li>・文化祭への出品。</li> </ul>				
図書資料の活用	レポート課題に参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 教科書p4～	篆書の学習 石鼓文
	5	教科書p20～	隷書の学習 乙瑛碑
	6	創作	居延漢簡 書道展出品用作品制作 文化祭作品制作
			レポート課題
2	9	教科書p30～	草書の学習 書譜
	10	教科書p36～	行書の学習 集王聖教序 争坐位稿 楷書の学習 孟法師碑
	11	創作	
			レポート課題
3	1	教科書p58～	仮名の学習 高野切第一種
	2	創作 教科書p80～	漢字仮名交じりの書の学習
			テスト

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術	美術II	進学文系	1	小西
教科書	高校生の美術2（日本文教出版）				
副教材	なし				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることの理解</p> <p>技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能/創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考し取舍選択する能力（制作）</p> <p>造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え、伝える能力（鑑賞）</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に美術の幅広い活動に取り組む態度</p>				
考査	なし				
評価	各学期、100点満点で表記する。				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 知識・技能（50点）</p> <p>小テスト5点、美術の基礎的な言語技能5点、作品40点</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力（20点）</p> <p>構想メモ、制作中の振り返りWS（ワークシート）、鑑賞WS</p> <p>（学期によって実施状況が異なるので、取り組んだ時間や労力を考慮して点を配分。）</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>提出物10点、積極性10点、制作前の鑑賞WS&amp;制作終了後の振り返りWS10点</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。				
図書資料の活用	授業中に図書室資料を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書、WS（ワークシート）	シュルレアリスム絵画の鑑賞
	5 6	構想用WS アクリルガッシュ、メディウム、油彩用具など	シュルレアリスム絵画の制作
		WS	生徒作品の鑑賞、振り返り
2	9	教科書、WS	デザインとは何かを学ぶ（鑑賞）
	10	構想用WS	生活を良くするためのデザインを構想する
	11	ケント紙を使用、もしくはibisPaintを使用  WS	ポスターにまとめる  生徒作品の鑑賞、振り返り
3	1	教科書、WS	水墨画の鑑賞
	2	墨など  WS	水墨画の制作  生徒作品の鑑賞、振り返り

## 二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	二年次では、共通のテーマに基づいたフィールドワークを実施する。 また、フィールドワークの振り返りを兼ねて、特定分野の学問研究を行う。 個人でテーマを設定し個人での探究を行い、3学期に発表会を実施する。 一学期 防災をテーマとして、フィールドワーク・学問研究を行う。 二学期① 沖縄をテーマとして、ミニ探究を行う。 二学期② 個人でテーマを設定し個人探究を行う。 三学期 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。
教材教具	<input type="checkbox"/> iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) <input type="checkbox"/> マイナビテキスト「locus Program」 <input type="checkbox"/> ルーブリック表 <input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	フィールドワーク・学問研究を行う。 授業の流れ (概要) 1. 防災新聞の紹介・発表 2. 防災のための地方自治体の取り組みを学ぶ 3. フィールドワークの準備・計画・発表 4. フィールドワーク 5. フィールドワークの振り返り 6. サプライチェーンについて学ぶ
夏休み	一学期の振り返りと二学期の準備
二学期	前半 沖縄をテーマにしたミニ探究 (1. 2. 3.) 後半 個人で設定したテーマに基づく探究 (4. 5.) 授業の流れ (概要) 1. 夏休みの課題についてグループ内で発表 2. 沖縄をテーマにしたミニ探究 3. ミニ探究成果発表 4. 個人のテーマ設定、ゼミ分け 5. 個人探究 【沖縄修学旅行】沖縄ミニ探究に基づくフィールドワーク

三学期	個人探究を進めて学年末の探究成果発表会の準備を進める。 授業の流れ (概要) 1. 個人の探究を進める。 2. ゼミ内での発表・振り返りを行う。 3. 学期末に探究成果発表会を行う。 【探究成果発表会について】 中間発表という位置づけで行う。 中間発表を踏まえて三年次一学期に再度取り組む。
-----	--

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習・修学旅行をフィールドワークとして位置付ける。</li> <li>・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。</li> <li>・校外学習や修学旅行を通じて、事前に調べたことや学んだことを現地での活動に活かす。</li> <li>・ルーブリックを意識した行動を心がける。</li> <li>・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。</li> </ul>

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
※二年次は個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。